

農作物の生育状況と今後の見通し

農業振興戦略監とつり農業戦略課 研究・普及推進室 まとめ
令和2年2月17日 現在

作物名		生育状況等	今後の見通しと対策
作物	麦	<ul style="list-style-type: none"> 一部ほ場で湿害による生育不良や部分倒伏が見られ、草丈は平年より高く、莖数増加は緩慢な傾向である。 暖冬により茎立が1週間程度早く、2月上旬時点では葉齢が例年と比較して1カ月ほど早く進展しており、主程では止葉抽出が多数散見されている。 今後低温に遭遇した場合の不稔や、主幹と分けつとの生育差が見られることから出穂や成熟の不揃いが懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に排水溝を確認し、必要に応じて排水溝の手直しや追加設置を行うなどして、滞水が見られる場合は速やかに排水を促す。 第一回目穂肥の施用時期が早いと精麦率が低下するので、時期を守って施用する。 雑草の発生が多い場合には、麦の生育や収穫に支障が生じる場合があるので除草剤による防除を行う。 【降雪が続く場合】 雪解け後は排水溝を点検し、明きよと排水溝を連結する等ほ場の排水に努める。 積雪期間が長期にわたった場合は、雪解け後にできるだけ早く窒素肥料を追肥し、生育の回復に努める。 雪害は根雪が100日を越えると多く発生する。根雪が長引くと予想される場合には、融雪資材(育苗培土、堆肥等)の散布を行う。
	ナシ	<ul style="list-style-type: none"> せん定作業中である。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き雪害に注意する。 3月以降、暖冬により花芽の生育が進み霜害の危険が高くなるので、霜害対策を早めから徹底する。
	カキ	<ul style="list-style-type: none"> せん定作業中である。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き雪害に注意する。 3月以降、暖冬により生育が進み、霜害の危険が高くなるので、霜害対策を早めから徹底する。
果樹	ブドウ	<ul style="list-style-type: none"> ハウス被覆に向けて準備中である。 	<ul style="list-style-type: none"> ハウス被覆は2月下旬から始まる。 3月中旬までは積雪の可能性があるため、被覆後に降雪があった場合は早めに除雪する。
	白ねぎ	<ul style="list-style-type: none"> 【春ネギ】 暖冬の影響で生育が進んでいる。 2/4現在の花芽ステージは暖冬であった前年と同程度で、平年より2～3週間早い。気温が高いため伸長が進んでいる。 一部のほ場でさび病、小菌核腐敗病が発生。 【夏ネギ】 生育は概ね順調。暖冬の影響で生育が進んでいる。 トンネル作型は生育が進み葉鞘径が8mm以上のほ場も見られ、抽台が懸念される。 育苗中の苗は暖冬の影響で例年よりも発芽も良好で、順調に生育している。 【秋冬ネギ】 収穫は終盤を迎えている。暖冬で収穫が前ががりとなり、出荷量は例年よりも多い。 気温が高くさび病の発生が見目立つとともに、株の老化が見られるほ場がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 春ネギの抽台が1～2週間早まることが予想されるため、収穫が遅れないよう努める。抽台の恐れがある場合は前倒し収穫する。 トンネル栽培(5月下旬収穫作型)で抽台が懸念される。露地6月出荷作型の初夏一文字作付けほ場の抽台が懸念される。 収穫が遅れてる秋冬ネギは2月下旬には抽台が始まると予想されるため、早期収穫に努める。 さび病、小菌核腐敗症の防除を徹底する。
	ブロッコリー	<ul style="list-style-type: none"> 【秋冬どり】 暖冬の影響で生育が進み、前倒し出荷(10～14日程度)となっている。80%程度が収穫終了。 【初夏どり】 播種は1/15から始まり2/15で終了。発芽は良好で順調に生育中。 	<ul style="list-style-type: none"> 暖冬で花蕾生育が早いこと、収穫遅れにならないよう適期収穫に努める。 今後も高温が予想されるため、特に菌核病の防除を徹底する。 例年よりも高温傾向のため育苗期のハウス換気を徹底し、併せて過湿とならないよう灌水管理に注意する。
らっきょう	<ul style="list-style-type: none"> 1/30の生育調査では、遅れていた地上部の生育はほぼ平年並に回復。分球数は平年よりやや多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 春腐病の発生が早まることが予想されるため、防除に努める。 暖冬で黒点葉枯病が発生しやすいので追加防除する。 	
野菜	トマト	<ul style="list-style-type: none"> 【促成トマト(大原地区)】 1段目の果実が大きいもので6～8cm、2段目が開花～着果、早い株では3段目が開花中。樹勢が強く、節間伸長している。平年と比べ生育ステージが1週間程度早い。 気温が高く花芽の生育期間が短いため、花がやや小ぶり。 	<ul style="list-style-type: none"> 灰色かび病が見え始めているため防除を徹底するとともに、花卉かすや葉枯れ部分は早期に除去する。 花がやや小ぶりであり、小玉傾向が予想される。
	いちご	<ul style="list-style-type: none"> 章姫、とつておき、かおり野および紅ほっぺの第2果房および第3果房の果実が出荷されている。 章姫の出蕾、第2果房の果実肥大が遅れており、羽合地区の積算出荷量は昨年よりも少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 紅ほっぺの出荷量が徐々に増える見込み。 気温が高くアブラムシ、ハダニ類の発生が早いこと、早期の予防防除を徹底する。
	シンテッポウユリ	<ul style="list-style-type: none"> 【東部地区】 八頭町内の播種は12月下旬から1月下旬。発芽率が低く発芽後の生育が緩慢で、特に電熱温床がない場合に顕著。また、発芽率は70%と例年通りの生産者も発芽後の生育は遅く、子葉が伸び切っていない個体も多い。 智頭町内では1戸で電熱温床があるにもかかわらず、ほぼ全滅状態で苗の手配がつかない状況。育苗を受託している1戸は発芽率は70%程度だが、発芽後の生育が遅く成苗率は60%程度になると思われる。 鳥取市内も同様の状況で、全般に発芽率が低く生育揃いが劣るうえに生育が遅い。一方で、早いものでは本葉が見え始めている。全体には10日以上遅れている状況。 【中部地区】 倉吉市の地床育苗では、年明けに播種したものが発芽中。概ね発芽は順調だが、例年より発芽率がやや低い(達観)。発芽揃いは例年より劣る。土壌消毒の薬害と思われる発芽不良も見られる。 北栄町では12/20に3戸で播種開始(例年より4日程度早い)。発芽揃いが非常に悪く、定植予定枚数が大幅に減る見込み。 北栄町の抑制作型は、ほとんどのほ場が収穫を終了したが、一部生産者は出荷継続中。週1回の出荷で250～500本/日(単価110円)。 	<ul style="list-style-type: none"> 苗の生育遅れが見られるため、保温気味の管理とする。なお、2/23以降は高温に関する早期天候情報が発表されており生育が進むと予想されるので、気象情報に留意して適切な温度管理に努める。 気温の上昇に伴い乾燥が予想されるため、かん水管理に注意する。一方で、過湿にならない水管理にも十分注意する。 子葉が展開したら液肥を施用し、肥料切れを起こさないよう管理する。 北栄町では苗数量不足を補うため、抑制作型の球根を利用して対応する予定(2戸)。
花き	ストック	<ul style="list-style-type: none"> 【東部地区】 八頭町内は春の彼岸出荷作型で草丈は60cm以上あり、早いものは着色して開花が始まっているものもある。換気が不十分なハウスでは菌核病が発生している。 【中部地区】 倉吉市の8月下旬播種分の収穫は終盤となった。 北栄町ではスタンダード、スプレーともに出荷終盤を迎えつつある。スタンダードは日量7,000本(平均単価75円)、スプレーは5,000本/日(平均単価105円)。目立った病害虫の発生は見られない。 【西部地区】 大山地区全体では高温が続いたことで出荷量が増加し、1月下旬までの収穫の進捗率は約80%となっており、計画の71.4%を上回っている。1月下旬の出荷量は約8,500本/日と昨年の約2倍となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ハウスの換気に努め、湿度の低下を図り病害発生を抑制する。また、2/23以降は高温に関する早期天候情報が発表されており、開花は一層進むと予想される。3月彼岸出荷を目指すために、必要に応じて夜間もハウスを開放して可能な限り低温管理とし、開花抑制を図るなど生育状況を観察しながら管理する。 定期防除を徹底するとともに、菌核病の発生株は抜き取り、ほ場外に運び出して適切に処分する。
	イタリアンライグラス	<ul style="list-style-type: none"> 【東部管内】 生育は順調。 【大山管内】 草丈5～20cm程度。 ほ場内での草色にバラツキがあり、肥料不足が懸念される。 【西部管内】 生育は例年以上に進んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 【大山管内】 2/17現在では雪もほぼ解け、雪腐れ被害の心配は今のところない。 必要に応じて早めに追肥を行う。 【西部管内】 必要に応じて早めに追肥を行う。
畜産			